

事業番号 2022 - 文科 - 21 - 0145

令和4年度行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	知識集約型社会を支える人材育成事業			担当部局庁	高等教育局	作成責任者	
事業開始年度	令和2年度	事業終了 (予定) 年度	令和6年度	担当課室	大学振興課	大学振興課長 古田 和之	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な 条項も記載)				関係する 計画、通知等	・「成長戦略実行計画」(令和元年6月21日 閣議決定) ・「成長戦略フォローアップ」(令和元年6月21日 閣議決定) ・「経済財政運営と改革の基本方針2019」(令和元年6月21日 閣議決定) ・「AI戦略2019」(令和元年6月11日 統合イノベーション戦略推進会議決定)		
主要政策・施策	子ども・若者育成支援			主要経費	文教及び科学振興		
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	Society5.0時代等に向け、狭い範囲の専門分野の学修にとどまるのではなく、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現するため、全学的な教学マネジメントの確立を図りつつ新たな教育プログラムを構築・実施するとともに、質と密度の高い主体的な学修を実現することを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	各大学が、時代の変化に応じ多様な教育プログラムを持続的に提供していくためには、全学横断的な改善・改革の循環を生み出す基盤・システムを学内に形成することが不可欠であり、これらへの対応と一体的に幅広い教養と深い専門性を持った人材育成に向けた教育改革を実現する取組を支援。 具体的には、以下の3テーマについて新たな教育プログラムを構築・実施。(メニューⅠ及びⅡ:令和2年度より、メニューⅢ:令和3年度より) ・メニューⅠ:文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム(レイトスペシャライゼーションプログラム、ダブル・メジャープログラム、分野融合の学位プログラム等) ・メニューⅡ:非凡な才能をもった学生に「個別最適化した学び」を実現するための、出る杭を引き出す教育プログラム ・メニューⅢ:授業科目を大胆に絞り込み、一定期間、精選された授業科目を複数回数実施し、密度の濃い学修を実現する、インテンシブ教育プログラム 補助率:定額						
実施方法	補助						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 の 状 況	当初予算	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度要求
		補正予算	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し	-	-	-	12	-
		翌年度へ繰越し	-	-	▲ 12	-	-
		予備費等	-	▲ 61	-	-	-
		計	0	348	501	448	324
	執行額	0	295	439	-	-	
	執行率 (%)	-	85%	88%	-	-	
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%)	-	72%	86%	-	-	
令和4・5年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算目	令和4年度当初予算	令和5年度要求	主な増減理由			
	大学改革推進等補助金	429	319	※金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。			
	庁費	7	4				
	職員旅費	0.4	0.4				
	委員等旅費	0.4	0.3				
	諸謝金	0	0				
計	436	324					

活動内容 (アクティビティ)	複雑・高度化する社会課題等に対して、普遍的な見方から事象の全体像を捉える能力を備えつつ、文系理系・分野を越えた複数の深い専門知識の組み合わせからアプローチできる力を備えた人材育成を進めるため、取組を行う学部等において、複数のディシプリン(学問の知識体系)や、それぞれの基盤となる原理や思考のフレームワークを理解・修得し、その修得した知識・スキルを実際の社会に適用することのできる能力を育成するカリキュラムを構築するとともに、モデルとして普遍化し、学内及び他大学に普及・展開する教育プログラムを構築する大学等に対する補助を行う。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	文理横断・学修の幅を広げる教育プログラムの構築・実施	事業実施件数(メニューⅠ)	活動実績	件	-	5	5	-	-	
			当初見込み	件	-	5	5	5	5	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	執行額/実施件数(事務費は除く)			単位当たりコスト	千円	-	45,174	46,707	45,079	
				計算式	千円/件	-	225,868/5	233,533/5	225,396/5	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 6年度	
	複数のディシプリン(学問の知識体系)や、それぞれの基盤となる原理や思考のフレームワークを理解・修得し、修得した知識・スキルを実際の社会に適用することのできる能力を育成するカリキュラムの構築	構築されたカリキュラムの参加学生の割合	成果実績	%	-	-	98	-	-	
			目標値	%	-	-	100	100	100	
			達成度	%	-	-	98	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	文部科学省における事業実施状況調査 ※令和2年度まではカリキュラム構築準備を実施しており、3年度よりカリキュラムの展開が始まることから、実績は3年度より記載。									
活動内容 (アクティビティ)	特定の分野で特に優れた資質を有する学生に早期から更に高い水準の教育機会を提供し、その才能の一層の伸長を図ることで、知識集約型社会において我が国を牽引していく人材を養成するカリキュラムを構築し、学内及び他大学に普及・展開する教育プログラムを構築する大学等に対する補助を行う。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	出る杭を引き出す教育プログラムの構築・実施	事業実施件数(メニューⅡ)	活動実績	件	-	1	1	-	-	
			当初見込み	件	-	1	1	1	1	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	執行額/実施件数(事務費は除く)			単位当たりコスト	千円	-	24,950	26,359	40,391	
				計算式	千円/件	-	24,950/1	26,359/1	40,391/1	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 4年度	目標最終年度 6年度	
	特定の分野で特に優れた資質を有する学生に対する早期からの更に高い水準の教育機会提供による人材養成カリキュラムの構築	修士科目の学士課程における先行履修実施科目数	成果実績	件	-	-	-	-	-	
			目標値	件	-	-	-	24	24	
			達成度	%	-	-	-	-	-	
根拠として用いた統計・データ名 (出典)	文部科学省における事業実施状況調査 ※令和3年度まではカリキュラム構築準備を実施しており、4年度よりカリキュラムの展開が始まることから、目標は実施大学にて4年度より設定。									
活動内容 (アクティビティ)	学士課程において、各学期で精選された授業科目を週複数日実施することで、密度の濃い教育課程を実現するための教育システム改革を進める大学等に対する補助を行う。									
活動目標及び活動実績 (アウトプット)	活動目標	活動指標		単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度 活動見込	5年度 活動見込	
	インテンシブ教育プログラムの構築・実施	事業実施件数(メニューⅢ)	活動実績	件	-	-	3	-	-	
			当初見込み	件	-	-	3	3	3	
単位当たりコスト	算出根拠			単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	4年度活動見込		
	執行額/実施件数(事務費は除く)			単位当たりコスト	千円	-	-	28,888	55,907	
				計算式	千円/件	-	-	86,665/3	167,721/3	

成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度	中間目標 5 年度	目標最終年度 6 年度
	インテンスブ教育プログラムによる幅広い教養と深い専門性を持った人材の育成	インテンスブ教育プログラムを履修した学生数		成果実績	件	-	-	-
		目標値	件	-	-	-	799	799
		達成度	%	-	-	-	-	-

根拠として用いた統計・データ名(出典)
 文部科学省における事業実施状況調査
 ※令和3年度まではカリキュラム構築準備を実施しており、4年度よりカリキュラムの展開が始まることから、実績は4年度より記載

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	4 個性が輝く高等教育の振興						
	施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上	政策評価書 URL	https://www.mext.go.jp/content/20210922-mxt_kanseisk02-000017742-4_1.pdf				
			該当箇所	p.1-3				
	新経済・財政再生計画改革工程表 2021	分野: (新経済・財政再生計画改革工程表 2021) URL:	-	-				
		該当箇所	-					

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	本事業は、「成長戦略フォローアップ」(令和元年6月21日閣議決定)等に掲げられた「Society5.0時代を支える幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現するための教育プログラム」を実現するものであり、社会のニーズを反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	本事業は、「成長戦略フォローアップ」(令和元年6月21日閣議決定)等に掲げられた「Society5.0時代を支える幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現するための教育プログラム」を実現するものであり、国が実施すべき事業である。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	本事業は、「成長戦略フォローアップ」(令和元年6月21日閣議決定)等に掲げられた「Society5.0時代を支える幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現するための教育プログラム」を実現するものとして必要かつ適切な事業であり、優先度の高い事業である。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無	本事業は、公募した上で有識者からなる委員会による公平な審査を経て選定しており、その妥当性や競争性を確保している。
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○	本事業は、公募した上で、経費面を含め有識者からなる委員会による公平な審査を経て選定しており、かつ実施年度を追う毎に補助金額を逡減することにより、事業実施機関における自主経費の支出のバランスに考慮した事業運営を行っている。
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	補助金を交付する際は、事業経費の費目・使途の内容について厳正に確認するなど、妥当なコスト水準かを確認している。
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	○	補助金を交付する際は、事業経費の費目・使途の内容について厳正に確認するなど、資金の流れを確認している。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	補助金を交付する際は、事業経費の費目・使途の内容について厳正に確認することで、事業目的に即した真に必要なものに限定している。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況、事業目的との整合性、コスト水準等について確認を行っている。	

事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	全学的な教学マネジメントの確立を図りつつ幅広い教養と深い専門性を両立した人材を育成するという事業目的に対して、各メニューに関連する件数を成果目標とする。定量的成果目標については、今後、調査の実施又は実施済みの調査の結果集計等により、事業目的にふさわしい目標を設定する予定。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	国公私立大学を通じた競争的環境の下、国として進めるべき改革を積極的に推進する大学の取組を選定・支援しており、効果的な事業を実施している。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	本事業は、定量的な活動指標を設定した上で実施しており、活動実績の着実な向上に向けて実施している。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	本事業における成果等については、HPや各種メディアへの掲載、選定校間の連携による成果発表会等を通じて活用の促進を図っている。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	-	
	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果	効果的に各大学の教育改革とマネジメント改革を一体的に展開させる取組を採択、支援するものとする。プログラムの着実な実施に向け、毎年度、各採択事業の進捗状況をフォローアップするほか、メニューⅠ及びⅡについては補助期間の3年目となる令和4年度には中間評価を実施する。各大学からは、申請時点において取組に係る成果指標を提出させることとしており、事業の進捗確認においても活用する。	
	改善の方向性	プログラムが円滑に進むよう選定校それぞれにプログラムの日常的な進捗状況の把握、相談、助言等を行うPO(プログラムオフィサー)を置くこととする。また、事業の実績・成果をより効果的・効率的に活用するため、選定校間のネットワークを活用するなど、取組の加速や補助期間終了後の定着に努める。なお、事業期間終了後の令和7年度には事後評価を行い、各大学における取組の改善と定着、取組成果の他大学への普及に資することとしている。	
外部有識者の所見			
外部有識者による点検対象外			
行政事業レビュー推進チームの所見			
の事業改善部内改善	この事業は、概ね計画通りに実施されていると考えられるが、本格的に修了生が輩出され始めることから、引き続き事業の成果のよりの確かな把握に努めるべきである。		
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況			
執行等改善	各採択事業においては、一定の成果指標において達成目標を定めており、外部有識者からなる事業委員会による実地訪問を含むヒアリング等を介し、上記指標の確認に加え、当初計画の達成状況及び事業の進捗状況や成果を把握するとともに、中間評価等を行っていく予定である。		
備考			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成23年度	-		
平成24年度	-		
平成25年度	-		
平成26年度	-		
平成27年度	-		
平成28年度	-		
平成29年度	-		
平成30年度	-		
令和元年度	文部科学省 - 新32 - 0009		
令和2年度	文部科学省 新02 0011		
令和3年度	2021 文科 20 0146		

※令和3年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。
 なお、金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合があ

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)

文部科学省
 439百万円

委員等旅費 0.01百万円
 庁費 7百万円 } を含む

狭い範囲の専門分野の学修にとどまるのではなく、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現するため、全学的な教学マネジメントの確立を図りつつ新たな教育プログラムを構築・実施する取組を支援。

【補助金等交付】

A. 国立大学法人等(9大学)
 386百万円

狭い範囲の専門分野の学修にとどまるのではなく、今後の社会や学術の新たな変化や展開に対して柔軟に対応しうる能力を有する幅広い教養と深い専門性を持った人材育成を実現するため、全学的な教学マネジメントの確立を図りつつ新たな教育プログラムを構築・実施。

【補助金等交付】

B. 独立行政法人日本学術振興会
 47百万円

知識集約型社会を支える人材育成事業の審査・評価、公表・普及等を実施。

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A.国立大学法人金沢大学			B.独立行政法人日本学術振興会		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
人件費・謝金	事業運営に係る専門人材、事務補佐員への人件費等	25	人件費・謝金	業務担当職員人件費、事業委員会委員手当等	27
その他	システム管理・改修経費、印刷製本費、会議費等	19	その他	会議費、外注費、印刷製本費等	14
物品費	学習環境整備、消耗品等	7	旅費	会議出席旅費、現地訪問旅費等	5
旅費	調査旅費、外部人材招聘旅費等	2	物品費	消耗品費	0.1
計		53	計		46.1

